

# 進路通信

2021年 第19号 3月9日 (火) 発行



原稿をチェックするふたり

## 合格者インタビュー

まだ国公立の発表が続いており、中・後期の試験はこれからとなりますが、私立大学の受験を終えた3年生(卒業生)に大学受験を振り返ってもらいました。1組の荒川奏真君(立教大学文学部、鴻巣川里中出身)と2組の坂村優樹君(早稲田大学教育学部、坂戸千代田中出身)のふたりです。聞き手:佐野



荒川君  
自習室のいつもの席で



坂村君  
早稲田の赤本を持って

Q.荒川君、合格おめでとうございます。今の心境は?

A.ありがとうございます。やっぱりすっきりしましたね。第一志望に合格できたんでよかったです。

Q.どんな勉強してた?

A.世界史は1年からコツコツやっていたので大丈夫でした。英語と国語は苦手だったので、本当に基礎からですよ。単語とか文法とかからです。1年生からやらなきゃとは思っていたんですけど、2年生の模試の結果が悪かったので、危機感持ってできたのはそこからですね。

Q.大学受験で何がキツかった?

A.自分の力が足りないのに、受験が近づいてくる不安ですね。自分はYoutubeで受験の体験動画とか見て気持ちを高めてました。同じクラスに難関大を目指す同級生がたくさんいたので、一緒に受かりたいとは思ってました。

Q.在校生に言っておきたいことは?

A.受験って本当にあっという間に来ってしまうので、自分はまだまだ大丈夫だと思わないで、今からでも少しずつやっておいた方がいいと思います!

佐野:荒川君、ありがとうございました!

Q.坂村君、合格おめでとうございます。よかったですね。

A.いやあ本当に嬉しいです!

Q.合格に直結した勉強は?

A.3年の夏休みまでに基礎を固められれば、あとは過去問(赤本)ですね。最後は勉強の8、9割は過去問を解いて、ひたすらわからなかったところを復習していくことの繰り返しでした。

Q.何年分くらい解いたの?

A.早稲田は第一志望だったので11年分解きました。正直、今思うともっとやってもよかったですね。早い時期に第一志望の大学の過去問を1年分解いて、自分のゴールを確認し、逆算して「自分に何が足りないのか」を明確にしておくべきだと思います。

Q.勉強はどこでやった?

A.ほとんど学校ですね。自習室に過去問があるんでそこで終バスまで勉強して、家では復習とか暗記物をやるようにしてました。

Q.メンタル的に一番キツかったのはいつですか? また、それはなぜ?

A.やっぱり3年の秋から冬ですね。勉強していて、自分の学力が合格ラインに届いていないことへの焦りが強かったです。

Q.模試の判定はどうだったの?

A.早稲田は3年間通してE判定でした。MARCHはよくてDからCを取ったこともあったんですけど、ほとんどE判定でした。

Q.受験勉強で一番大切なことって何?

A.自分で調べて自分で考えて自分で実際に行動することです。受け身の勉強は効率が悪いです。自分で考えないから頭に入らないんですよ。

Q.在校生に言いたいことある?

A.ぶっちゃけ、今から勉強すればどこにでも行けますよ。第1志望校は自分の学力関係なく、行きたいなら目指すべきです。

佐野:坂村君ありがとう。大学でも頑張ってください!